

# 道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会  
事務局 札幌市厚別区厚別町小野幌  
北海道開拓記念館内  
電話 011-898-0456  
FAX 011-898-2657

苫小牧大会特集

第35号

## — 21世紀をめざす博物館・園のあり方をさぐる — 第三十回北海道博物館大会迫る

第30回北海道博物館大会及び平成3年度北海道博物館協会総会のあらましは、前号に掲載しました。その後、去る四月八日の道博協役員会にて未定であった大会テーマ、また特別講演講師、シンポジウムの司会者、提言者の方々も最終的に確定しました。さらに大会会場も苫小牧市文化会館に変更になりましたので以下、その概要をお知らせします。

会期 平成3年7月23日(火)・7月24日(水)  
会場 苫小牧市文化会館  
(苫小牧市旭町2丁目8-19  
電話 〇四二二六七八二三)  
大会テーマ 21世紀をめざす博物館・園のあり方をさぐる

日程 7月23日(火)  
①受付 (9:00~9:30)  
②開会式・総会 (9:30~11:15)  
③特別報告(11:15~11:45)  
「日本における博物館の現

④記念撮影・昼食 (11:50~13:00)  
⑤特別講演 (13:14~14:30)  
「環境問題と博物館」  
北海道大学大学院環境科学

⑥道博協30周年記念シンポジウム (14:30~17:00)  
司会者 北海道開拓記念館  
学芸部長 矢野 牧夫  
提言者 苫小牧市科学セン

ター 館長 杉山 光二  
北海道立近代美術館  
学芸参事 鈴木 正實  
北網圏北見文化センター  
館長 大原 利夫

⑦学芸職員部会 (17:10~18:00)  
⑧懇親会 (18:30~20:00) 会場  
ホテル ニュー王子

7月24日(水)  
①閉会式 (9:00~9:30)  
②施設・史跡見学 (9:30~

11:45)  
「日本における博物館の現

状と課題」日博協 専務理事  
毛利 正夫

北海道博物館協会三十周年という記念すべき大会が当市において開催されますことは、望外の喜びとするところであり、心から歓迎申し上げます。

苫小牧市は、石狩低地帯の南端に位置しています。市街地の北西には、溶岩円頂丘をもつ樽前山や、典型的なカルデラ湖の支笏湖があり、また、勇払原野には多くの湖沼を擁し、多様な豊かな自然環境に恵まれたところです。

一八〇〇年頃、当地方発祥の地である勇払は、「勇武津場所」として栄え、東西蝦夷地の分岐点となり、当時の、交通の要衝でした。勇払には、こうした史跡などの貴重な多くの文化財が保存整備されています。

13)、苫小牧市博物館、苫小牧西港、勇払史跡群、静川遺跡、ネイチャー・センター  
特別講演など、開催要領と一部、異なっています。

### 苫小牧大会 施設・史跡見学地紹介

北海道博物館協会三十周年という記念すべき大会が当市において開催されますことは、望外の喜びとするところであり、心から歓迎申し上げます。

苫小牧市は、石狩低地帯の南端に位置しています。市街地の北西には、溶岩円頂丘をもつ樽前山や、典型的なカルデラ湖の支笏湖があり、また、勇払原野には多くの湖沼を擁し、多様な豊かな自然環境に恵まれたところです。

#### 苫小牧市科学センター

昭和四五年、科学館と博物館の内容をもった「青少年センター」として設置されまし



あります。このほか、昨年新装したプラネタリウムや天体観測などの設備もあります。

事業は、市内小学校五、六年の全生徒を対象とした理科

実験「一日科学センター」や工作教室「親子日曜教室」などを行っています。

ネイチャーセンター

(ウトナイ湖サンクチュアリ)

勇払湿原を代表するウトナイ沼周辺は、二百種以上の野鳥が観察できることや、国内でも屈指の渡り鳥の中継地点として全国的に知られています。昭和五六年には、この豊かな自然を守ることと、人と野鳥のふれ合いの場として活用するために、周辺約五一一ヘクタールが日本で最初のサンクチュアリに指定されました。

湖畔に設置されたネイチャーセンターには、日本野鳥の会のレンジャーが常駐し、サンクチュアリの保護・管理をするとともに、訪れる人々への案内、観察指導などにあたっています。センターの一階は、野鳥の羽や巣等の展示

物、視聴覚室、資料コーナーがあり、二階は展望室になっています。

苫小牧市博物館

苫小牧市博物館は、昭和六十年十一月「樽前山麓、勇払原野の自然と文化」をメインテーマに、苫小牧市埋蔵文化財調査センターを併設した複

合施設として、文化公園の一

角に建設されました。

エントランスホールには、当館のシンボル展示となつて

いるマンモスゾウの親子が展

示され、一階は樽前火山噴出

物の柱状模型や植物、鳥類の

ジオラマなどの自然系の展示、

二階は「北海道指定文化財」

になつている丸木舟などの人

文系の展示となつています。

事業は、各種の教育普及活

動の中でも特に、市内の全小

学校三年生を対象に、先人の

苦労や英知を体験学習する

ことができる「博物館郷土学

習」が関係者の注目をうけて

います。

苫小牧西港

本市は、明治四十三年、王

子製紙の創業以来、紙、パル

プ工業を中心に栄えてきまし

た。昭和二十六年に工事が開

始された西港は、世界初の内

陸掘込み式人造港として昭和

三十八年に開港しました。そ

の後、西港を基盤とした臨海

工業基地の造成が着実に進み、

ますます北海道を代表する工

業港として発展してきました。

西港は、現在、北海道の港

湾貨物の三分の一を取り扱う

までになり、また、外国の貨

物取扱量は、道内一となつて

います。

昭和五十六年には、全国で

十八番目の特定重要港湾に指

定され、国内はもとより外国

貿易港としても、注目されて

います。

勇払史跡群

「勇払会所の跡」

寛政十一年(一七九九)幕

府は東蝦夷地を直轄した際に、

シコツ十五場所を統括して「勇

払場所」とし、運上屋を会所

と改めました。当時の勇払は

政治、経済の要衝の地でした。

「蝦夷地開拓移住隊士の墓」

寛政十二年(一八〇〇)八

王子千人同心とその師弟たち

は蝦夷地の防衛と開拓のため

に勇払に移住しました。彼ら

の功績を称えるため、史跡公

園を設け、手厚く保護してい

ます。

「開拓使三角測量勇払基点」

明治六年、北海道開拓使は

三角測量による地図作りを開

始し、その基点を勇払と鶴川

に置きました。昭和三十七年

にその石柱が発見され、昭和

四十二年には北海道文化財に

指定されました。

国指定文化財

静川遺跡

苫小牧東部工業基地内に位

置し、昭和五十七年六月から備

蓄タンク建設予定地内におい

て発掘調査を実施したところ、



双頭状に突出した台地上に立地し、環濠・落とし穴・大規模住居址等遺構二一基、土器・石器等の遺物約十八万点を発見するに至りました。

環濠は、上幅二・三m、底幅〇、二・〇、五m、深さ一・一、八mのV字ないしU字形を呈し、全長一三八、五mに及びます。縄文時代の特殊な遺構であり、その規模、時代、形状等から、全国的にも珍しく、当時の人々の生活を

理解するために重要な遺跡であることから昭和六二年に国の史跡に指定されました。

(苫小牧市博物館)

主査 吉田 国吉



## 北海道ブロック春期飼育技術者研究会報告

日本動物園水族館協会北海道ブロック加盟の動物園、水族館の飼育技術者を対象として、春・秋の年2回開催されている研究会が、本年も六月六・七日の二日間にわたり、札幌のサンピア水族館を会場に開催されました。今回は新たに協会に加盟した登別マリンパーク・ニクスをくわえての十二園館二十三名の参加がありました。

二日間にわたって九演題の研究発表及び一題の協議事項、更には札幌市青少年科学館、

サンピア水族館の施設見学を実施しました。

発表演題及び発表者氏名については次のとおりです。

(一)、エゾシカの肝細胞癌について (円山 西根)

(二)、イトウに見られた寄生虫について (小樽 袴田)

(三)、自然抱卵中の卵重減少について (釧路 轟)

(四)、自家採集した飼育魚類について (ノシャップ 東)

(五)、のぼりべつクマ牧場における月日順・年齢順に見た出産例数について (クマ牧場 松島)

(六)、パー型スケールを用いた大型海獣類の体重計測について (小樽 村上)

(七)、アオガンの人工ふ化と育す (円山 大久保)

(八)、ネズミイルカの一死亡例について (サンピア 大滝)

(九)、タンチョウに見られた肝細胞癌について (釧路 志村)

(一〇)、日動水協道ブロック飼育協議事項

(一)、日動水協道ブロック飼育協議事項



技術者研究会の改善について (おびひろ 阿部)

研究発表並びに協議事項は予定時間を超えるほど活発に質疑応答がなされ、有意義で充実した二日間の全日程を終了することができました。

(サンピア水族館 学芸員 岡田尚憲)

北海道青少年科学館

連絡協議会から

平成3年度総会、永年勤続者表彰、第1回館長会議が平成3年4月25・26日、釧路市において、加盟科学館の全館長出席のもと開催された。

◎総会

平成2年度事業及び決算、並びに平成3年度事業案及び予算案について審議し、夫々提案のとおり承認した。

平成3年度の役員については会長北見市、副会長千歳市、監事は札幌市と小樽市と決定した。

職員研修会については9月21・22日、北見市で開催する。本年、北見市は開基95年、市制施行50年という記念すべき年を迎え、記念事業としてソーラーフェスティバルが開催されます。

日本で初めて道路を走行するソーラーカーチャレンジ、あるいはエネルギー活用展のほか、ソーラーにかかわるシンポジウム、学会、フォーラム等が企画されており、その時期にあわせて開催する。

◎永年勤続者表彰

15年 沖館紀子 旭川市

8年 大野寛治 帯広市

8年 服部正男 帯広市

◎館長会議

科学館の情報交流の場として、年3回の館長会議を開催しており本年度第1回釧路市、

第2回札幌市、第3回は小樽市と開催市を夫々決定した。

◎施設見学

釧路市立博物館、釧路マリントボス、鶴公園、釧路湿原展望台、大規模運動公園等の施設を見学いたしました。

このたびの総会から施設見学にいたるまで、釧路市波多野社会教育部長を始め、釧路市青少年科学館山田館長並びに館職員には大変お世話になり、誌上をもってお礼を申し上げます。

(北網圏北見文化センター 館長 大原 利夫)

第3回役員会報告

平成2年度第3回役員会が去る4月9日、札幌のスノー会館にて開催された。議題は①一般経過報告、②平成2年度事業報告及び会計収支報告、③平成3年度事業計画及び会計収支予算(案)、④平成3年度第30回博物館大会、⑤道博協30周年記念事業について、⑥道博協顕彰について⑦その他、これらの詳細は、大会総会にて報告されます。



## 館 園 紹 介

## 風連町歴史民俗資料館

道北は名寄・士別両市の中間に位置する風連町。当町の開基90周年事業として建設されたのが風連町歴史民俗資料館で、平成二年四月にオープンしました。

町の文教ゾーンの一部にある同館は、鉄骨コンクリート造り二階建て（延べ床面積六四一平方メートル）で、総工費約二億円。

館のテーマを「北限の農業―未開の大地と寒冷地農業への挑戦」とし、建物の外観は米どころ風連町ならではの「米蔵」のイメージです。

館の内部は、一階に常設展示室を設け、開拓時代から現在に至るまでの風連の歴史や人々の暮らし、自然などを、写真パネルやイラストパネル、マルチスライドなどを駆使して紹介しています。

展示内容は①風連の自然と人②古代の生活③未開の大地と寒冷地農業への挑戦④町のひろがり⑤学校と子どもたち

⑥便利になった毎日⑦いま風連町は⑧豊かなる風連の自然―の八つのシナリオで構成してあります。

二階には日常生活用品等を陳列した収蔵展示室のほか、多目的に使用できる特別展示室もあります。ここには高性能のオーディオ機器を備えてあり、CD・LDコンサートや懐かしの映画上映会、小規模講演会などの会場として有効活用されています。

このほか同館を特徴づけるものとして、樹齢四百年以上、木の周囲が三メートルを超すイタヤカエデの木や道内一の大きさを誇る象眼壁画、美しいステンドグラスなどが設置されています。

同館の運営にあたっては、十人の町民有識者から成る運営協議会を設けて企画立案に関する助言をいただくなかで、二カ月に一回の割で各種特別展示を開催しています。この種の施設は「一度見学したらもう十分」と敬遠されがちですが、当町にあっては趣向を凝らした特別事業の開催によ

り多くの町民から親しまれており、平成二年度の延べ入館者は一万人の万台を超えました。

また、ユニークな手法として「ボランティア協力員」制度をとり、町の歴史等に詳しい方約三十人を委嘱して事務所当番や入館者案内などの面で協力いただいております。所在地・<sup>098-05</sup>上川郡風連町南町85番地の2

電話番号・〇一六五五―三二二五（風連町教育委員会）

開館時間・午前十時～午後四時



休館日・毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は火曜日）、国民の祝日の翌日、年末年始  
見館料・一般百円（十人以上の団体七十円）、小中学生五十円（同三十円）。ただし場合により減免措置がある。

（風連町教育委員会）

## 館 園 紹 介

## 栗山町開拓記念館

栗山町開拓記念館は、明治二一年に、開拓の躰が入れられて以来の開基百年を記念して、昭和六三年九月に開館しました。建設地の角田地区は、本町発祥の地で隣接地には開拓の祖、泉麟太郎翁が明治三一年に建設した藁葺屋根の住居があり現在は泉記念館として開拓当時を忍ばせる佇いを残しています。

開拓記念館は、郷土の歴史を「見る」「知る」「考える」「教わる」「体験する」場とし、先人との肌での対話から明日の英知と希望を導くことを目指しています。明治二一年に開拓が始められてから寒

冷な自然条件での産業を人々はいかに克服して発展させ今日の栗山の町を創つてきたかを今日までの生活産業、文化などをできるだけ実物資料を通して、開拓者らが築いた不屈の精神を伝えることを基調として、「自然と人と文化」

をテーマに展示されています。夕張川の流れと雄大な大地とともに発展してきた栗山町を紹介する導入部として、自然のコーナーでは、気球のゴンドラに乗って栗山町の上空の街並み散歩、歴史散歩、夕張川のぼりを楽しむことができます。栗山町は国蝶オオム

内に生息する昆虫標本の中にも見られます。その他、地理・地形、動物物、地質・土壌を模型や写真で紹介しています。開拓のコーナーでは、夕張川を渡って入植する場面をジオラマで、開拓間もなくの開拓者たちの苦難を物語る場面をジオラマと音声で再現しています。

昭和五年頃を再現した学校ジオラマでは、旧角田小学校



舎の廃材を利用し、授業風景  
を見る事ができます。

農業、林業、商業、鉱業と  
多様な資料展示もなされ「農  
業の移りかわり」は映像資料  
で学ぶことができます。こと  
に二〇年前まで勇壮にその姿  
を見せていた夕張鉄道は、本  
町の各産業との関わりも深く  
多くの実物資料と模型で住時  
を物語っています。

栗山が開拓され、村となり  
町となる経過や様子を様々な  
記録資料や実物資料、模型や  
ジオラマ、音声や記録映像を  
用いて歴史の移り変わりを解

りやすく表現しています。  
開基百年（昭和六三年一月  
〜二月）に生まれた赤ちゃん  
の生後三カ月の一人一人の  
写真を展示し、未来を子供た  
ちに託し夢を語りかけていま  
す。

特別展示室では、年三回の  
特別展示を開催、又、ユニー  
クな利用としては、音響が大  
変良いことから室内楽演奏会  
も数多く開かれています。  
所在地・<sup>099-15</sup>夕張郡栗山町角田  
Ⅷ・〇一二三七二一六〇三五

開館時間・十時〜十六時  
休館日・毎週月曜日、国民の  
祝日の翌日、年末年始  
入館料・無料  
（栗山町開拓記念館  
館長 藤森 静一）

### 館 園 紹 介

#### 天塩川歴史資料館

平成元年六月にオープンし  
た天塩川歴史資料館は、開館  
以来大変好評をいただき、町  
内はもとより、道内外からの  
入館者も多く内容的にも高い  
評価をいただいております。  
資料館の建物は昭和二十五

年に建設された赤レンガ造り  
の旧役場庁舎を改装し、精選  
された展示物が内装と見事に  
調和し、整然と配列されてお  
ります。

入館して最初に目につく、  
木材の流送により栄えた天塩  
川河口の巨大パネル写真と流  
域を結ぶ運搬用船舶「長門」  
の二分の一模型（長さ八米・  
幅一・五米）で、パネル写真  
は大正十二年頃のもので、全  
盛期の賑わいを伝えてくれる  
貴重な資料でもあります。

海には三千トン級の積取船  
が連なるように停泊しており、  
河口一帯には数十隻の帆船と  
川一面の筏と木材、川岸には  
丸太が山積みされており、躍  
動感あふれる情景が思いださ  
れる。

長門船は、天塩港の繁栄と  
ともに流域の産物を運搬する  
ために使用された天塩川固有  
の川船であるといわれており、  
町内に在住する船大工の方々  
が板絵に書き残された図面  
に基づき、昔を偲び、思いを  
こめて製作したすばらしい作  
品に出来上がりました。

又、幕末の頃、ロシアの南  
下政策に対応するため天塩国  
一帯は、庄内藩の支配下にあ  
り、代官の任にあった「原  
半右衛門」さんが在任中の記  
録を詳細に書き残しておられ  
ひ孫にあたる方から寄贈して  
いただいた、日誌 天塩町絵  
図、七人風俗図など地域の状  
況をこと細かに記録した貴重  
な資料を展示しております。

又、昭和初期の街並みをパ  
ノラマ化したもの等、ボタン  
を押すと実際にあつた位置と  
その建物の形が確認できるシ  
ステムで当時の暮らしぶりや、  
市街地の様子が一目でわかる  
ように工夫展示されておりま  
す。

特に天塩町は、明治・昭和  
に大火があり、その範囲が点  
滅表示で確認され、いまわし  
い人災の記憶を呼びさまし、  
二度とこのような悲しみを繰  
り返さないために、町民に語  
りついでいたいただきたい思いか  
ら展示に踏み切ったものです。  
又、姉妹都市であるアラス  
カ州ホーマー市のコーナーな  
ど国際色豊かなものから、先住



民族の遺跡と遺物など稀少価  
値の高いもの等展示しており  
ます。  
収蔵資料は、産業関係の中  
心におよそ二、三〇〇点うち  
一、五〇〇点ほどを展示して  
います。

開館午前十時〜午後五時  
休館日 毎週月曜日 祝祭  
日の翌日  
入館料 大人、高校生二〇  
〇円、小中学生一〇〇円  
団体十名以上三割引  
開館期間  
五月一日〜十月三十一日

（天塩町教育委員会  
社会教育係長 川端 聡）

館園の主な行事案内 (7月~9月)

- 恵庭市郷土資料館  
7・6~8・18 特別展 戦争の爪痕  
7・30~11・17 北海道風物展
- 札幌市資料館  
7・30~11・17 北海道風物展
- 札幌市青少年科学館  
7・20~8・18 夏休み特別展、7・5~9、31~8・4、28~9・1 天文台夜間公開、7・25~26 気象講座
- 札幌市円山動物園  
7・10~8・31 第19回幼児・児童動物画コンクール、7・24~27 一日飼育係、8・1~2 夜の動物園見学会
- 札幌市豊平川さけ科学館  
7・21 豊平川さかなウォッチング
- 芸術の森美術館  
7・7~8・18 いわき市立美術館所蔵品展、8・24~9・29 クリスト展、6・30~9・16 北海道クラフト'91選 抜展
- 北海道開拓記念館  
7・7 バス見学会、500万年前の化石を掘る、8・1
- 7・9 15 テーマ展「鴻之舞 金山のあゆみ」、9・4 講演会「北方の威厳」、9・27 ~29 アイヌ語講座
- 北海道開拓の村  
7・28 開拓の村児童写生会、8・1~31 特別展「開拓の村の自然」、8・10~11 郷土芸能「獅子神楽・十津川大踊り」
- 北海道立近代美術館  
7・14~8・25 第4回世界現代ガラス展、8・30~11・24 北の個性派―風土からの造形―、8・31~9・26 写真のエコール・ド・パリ
- 北海道立三岸好太郎美術館  
7・24~9・29 所蔵品展
- 7・14~8・18 スペイン絵画展、8・27~9・23 蠣崎波響とその時代展、9・29~11・3 ルネ・ラリックから
- 北海道立函館美術館  
7・14~8・18 スペイン絵画展、8・27~9・23 蠣崎波響とその時代展、9・29~11・3 ルネ・ラリックから
- 北海道立函館美術館  
7・14~8・18 スペイン絵画展、8・27~9・23 蠣崎波響とその時代展、9・29~11・3 ルネ・ラリックから
- 砂川市郷土資料室  
7・14~8・18 スペイン絵画展、8・27~9・23 蠣崎波響とその時代展、9・29~11・3 ルネ・ラリックから
- 知内町郷土資料館  
8・1 見学会 ふるさと再発見の旅
- 大成町郷土館  
9・下旬 歴史文化講座
- 青少年研修施設 開陽丸  
8・17 東北・北海道青少年郷土文化遺産の交流会
- 小樽市博物館  
7・13~8・25 東海道五十三次名品展、8・31~9・29 国際ガラス工芸フェスティバル
- 小樽市青少年科学技術館  
7・25~8・25 わくわく! センサーたんけん館、8・7 臨海海草標本作成会
- 夕張市石炭博物館  
8・1~9・1 夕張の自然写真パネル展
- 滝川市美術自然史館  
8・10~25 広重・東海道五十三次と江戸歌舞伎絵展、9・21~10・6 大地の詩 北海道写真展
- 滝川市郷土館  
6・29~8・4 羊のぬくもりーホームスパン展
- 砂川市郷土資料室  
7・6~8・25 国立公園名画巨匠展、8・21~9・8 大江啓二展、9・11~15 管内高
- 8・1~10・1 特別展 土鈴展
- 北海道立旭川美術館  
7・6~8・18 自然を愛する芸術家たち、8・24~9・29 近代洋画の名作
- 旭川兵村記念館  
9・21 講演会「東旭川の歴史をたずねて」
- 上富良野町郷土館  
8・4 見学会「夏休み郷土探訪ツアー」
- 士別市立博物館  
7・7 高山植物観察会、7・13~8・18 バード展、9・21~10・6 日本版画協会巡回展
- 市立名寄図書館・郷土資料室  
9・22 サロベツ原野探鳥会
- 稚内市青少年科学館  
7・21 天文現象観測会、8・8~9 サマー・スクール
- 利尻町立博物館  
7・1~9・1 観察会「身近な鳥」
- 網走市立美術館  
7・6~25 国立公園名画巨匠展、8・21~9・8 大江啓二展、9・11~15 管内高
- 8・1~10・1 特別展 土鈴展
- 遠軽町郷土館  
7・16~31 阿部正人写真展
- 北網圏北見文化センター  
9・17~23 佐藤弘憲切絵展
- 7・27~8・18 松樹路入展
- 8・24~9・1 小中学校夏休み作品展、9・28~10・13 市制施行50年記念ピカソ展
- 斜里町立知床博物館  
7・3 遺跡見学会、7・21 野生動物観察会、7・27~8・2 知床自然教室、8・1 昆虫標本の作り方、9・1 鳴く虫の観察会
- 美幌博物館・美幌農業館  
7・20~8・25 企画展「パイオが作った野菜」、9・1~11・1 特別展「ふるさと作家たち」
- 北海道立北方民族博物館  
7・21~8・24 シベリアのトナカイ遊牧民ネッツ展、7・28 講演会「シベリアのトナカイ遊牧民」、8・10 講座「トナカイの社会誌」
- 苫小牧市博物館  
7・20~8・18 特別展「八王子千人同心展」、7・31 自然観察会

- 苫小牧市科学センター
  - 7・30～31 親子工作教室
  - 8・1～2 親子科学教室
  - 9・22～29 発明工夫展他
- 室蘭市青少年科学館
  - 7・25～8・13 夏休み科学クラブ、8・14、15、16 市民天体観望会、天体望遠鏡操作講習会
- 室蘭市民俗資料館
  - 7・28～8・31「市民のコレクション」展、8・中旬 ふるさと講座「古代の土笛を作る」
- 浦河町立郷土博物館
  - 7・18～9・1 天文教室、7・26 昆虫・植物標本の作り方、8・1～31 特別展「野塚トンネル展」
- 忠類ナウマン象記念館
  - 8・上旬～下旬 特別展「象のいたころの北海道」、9月下旬 少年自然教室
- 厚岸町郷土館
  - 8・3～18 国泰寺資料展2
  - 9・1 アツケシ草現地見学会
- 釧路市青少年科学館
  - 8・3～11 木のおもちや展、8・3、4 工作教室

- 釧路市立博物館
  - 7・8 釧路湿原観察会、7・30～8・2 釧路湿原ジュニア講座、8・10 地形地質観察会、9・1～9・8 釧路管内理科標本展

- 帯広百年記念館
  - 7・20 博物館講座「考古学」、8・10～25 桑原翠邦書展、9・21～10・20 特別展(仮) 森の貴公子・エゾシカ

### 北海道博物館略史(4)

#### (7) 札幌博物館

札幌仮博物館が狭くなったため、明治十三年(一八八〇)に開拓使が新館建設の方針を決めたことは既にふれたが、着工したのは十四年十月であった。この博物館の設計は、札幌農学校の教頭だったD・P・ベンハローが帰国する際

に、アメリカの類似施設の図面・仕様書等の調査を依頼し、結局ボストンの建築師ペートマンの設計書を手直し、それを基に開拓使工業局営繕課が実施設計を行った。

建設工事は、四〇五七円余を費して明治十五年六月に完成した。洋風木造二階建の本格的な博物館で、建坪は、博物館が七九坪四合余、平屋建看守人詰所六坪、便所二坪であった。なお、倉庫は明治十八年五月に建てられている。

この博物館は、開拓使が建設したが、完成した時には既に開拓使は廃止されており、農商務省博物館が引継いだ。しかし、翌十六年一月、同省に北海道事業管理局が置かれると、札幌博物館も同局に移管された。



札幌博物館開業式 - 明治15年 -

開拓初期の博物館の職員は、**列品ヲ大別シテ天産、史伝、勸業ノ三大部ト為スニアリ。**今や天産、史伝ノ両部ハ粗体裁ヲ為ト雖モ最モ要用ナル勸業ハ未タ整頓セス。依テ農漁山林ノ諸産物及其器具、整品等ヲ陳列シ、陸水二産増殖ノ模範ヲラシメントスルニアリ。(『諮問会議事録』)

札幌博物館の設置目的は、**仮博物館のそれと大きな変化はないが、開拓殖民、勸業、殖産興業」に資することを最も重視していた。**明治十五年十二月に博物館長から農商務卿に提出した文書には、次のように記されている。

札幌博物館ハ北海道所産ノ動植物及ヒ之ニヨツテ製出スル工芸品ヲ蒐集スル事。又開拓殖民ノ為メ裨益アル物品即農産、漁業、山林ノ諸産物及其製品并供用物品及器具等ヲ陳列シ、陸水二産増殖ノ模範ヲラシムル事。全道土人ノ曾テ使用シタルモノ及ヒ現今所用ノ物品ヲ蒐集シテ史伝ノ考徴ニ供スル事。(農商務省博物館「明治十五年重要雑録」)

さらに、十六年九月の記録には「札幌博物館将来ノ目的は、開拓使の仮博物館から引継いだもので、明治十五年七月の引継時点では八七一種、

二、八二四点であったが、二年後の十七年七月には、一、三二二種、六、〇五五点に増加している。

その内訳を見ると、天産部が二、五二点、四一・五%、史伝部が二、六三四点、四三・五%、勸業部が九一〇点、一五・〇%である。最も多い史伝部では、道内各地・東京、アイヌ風俗等の写真が一、一八八点にも達し、土器・石器類も一、一九点を数えた。アイヌ資料は三二七点である。天産部では、動物が圧倒的に多く一、三〇二点、植物七九一点で、鉱物は四一八点と比較的少ないが、開拓使のお雇いアメリカ人、ライマン等が採集した貴重な標本が含まれている。勸業部では、製造四一〇点、農産一四二点、水産一〇七点、図絵一四四点が主要資料である。全体に占める割合は低いものの、点数は二年間に著しく増加しており、当時、勸業資料の収集・陳列に力が注がれたことを示している。

関秀志「明治初期〜中期に

おける北海道の博物館―札幌を中心にして―」（『北海道開拓記念館研究年報』第四号、昭和五十年三月）、関秀志「明治期における北海道の博物館(2)」（『北海道開拓記念館調査報告』第三〇号、平成三年三月）

（北海道開拓記念館 開拓の村整備室長 関秀志）

事務局 日誌

- 4・9 平成2年度第3回役員会、札幌スノー会館で開催、役員16名、事務局5名出席。
- 4・10 北海タイムス社より「北の博物館」監修依頼
- 4・14 北海道博物館協会負担金請求書ほか送付
- 4・17 平成3年度第一回事務局会議、事務局体制他決定
- 4・25〜26 北海道青少年科 学館長会議（釧路市）
- 5・10 平成3年度北海道博物館協会表彰候補者の推薦依頼状、各館園長ほかに送付
- 5・14 第30回博物館大会事務打合わせのため、矢島、山田（健） 苫小牧へ出張
- 5・17 平成2年度北海道博

物館園等現況發送。平成2年度会計監査のため丹治、小田島、室蘭市へ出張（於室蘭市民俗資料館）

5・20 平成3年度協会負担金納入請求書送付。道北地区博物館等連絡協議会に矢島出席

5・22 道教育長に平成3年度北海道博物館大会補助金交付申請書送付

5・26 第30回北海道博物館大会に対する後援、特別報告、講演 シンポジウム等の依頼

5・27 第30回北海道博物館大会開催要領發送

5・28 平成3年度第一回役員会開催通知

5・29 第30回北海道博物館大会実行委員、事務局員委嘱。道博協ニュース第35号原稿執筆依頼

5・30 北海道博物館協会編増補改訂版『北海道博物館ガイド』刊行

5・31 平成3年度臨時役員会開催通知

6・4 第30回北海道博物館大会補助金の交付決定通知

6・12 平成3年度臨時役員

6・12 平成3年度臨時役員

新入 会 員

- 〈団体会員〉 端野町歴史民俗資料館（常呂郡端野町字二区四六九）、札幌市円山動物園協会（札幌市中央区宮ヶ丘三一）、中富良野町郷土館（空知郡中富良野町市街地）、瀬棚町郷土館（瀬棚郡瀬棚町字本町六二八）、金田心象書道美術館（天塩郡幌延町字幌延一〇二一）、標津サーモ科学館（標津郡標津町字標津三一五）、北海道立オホーツク流水科学センター（紋別市元紋別十一一六）、市立小樽文学館・美術館（小樽市色内一丁目九一五）、荒井記念館（岩内郡岩内町野東五〇五）、国指定重要文化財 旧花田家番屋（留萌郡小平町大字鬼鹿字広富）、江別市郷土資料館（江別市緑町西一丁目三八）、

北海道立帯広美術館（帯広市緑ヶ丘三八）

〈賛助会員〉 北海道防疫煙草株式会社（室蘭市海岸町一丁目無番地）

〈個人会員〉 田中利夫、

澤村 寛

（名称変更）北海道開拓記念館・開拓の村友の会↓社団法人 北海道開拓記念館・開拓の村文化振興会

協会役員異動

人事異動により、帯広百年記念館館長が小片英義氏より佐藤 昇氏、道立近代美術館副館長が近間郁雄氏より佐藤 修一氏に変わりました。会則に従い後任の方々協会役員となりました。

お 知 ら せ

平成3年度の事務局体制は、事務局長 矢島 睿、次長 山田 健（事業担当）、同丹 治輝一（庶務・会計）、事業担当 山田悟郎、庶務・会計担当 小田島和平です。